

メディア情報工学科だより



2008年8月28日 第3巻第2号（通巻第8号） 沖縄工業高等専門学校メディア情報工学科発行

学科近況

前回の学科だよりから約2ヶ月が経過し、5年生の進路も大勢が決したとご報告いたします。現時点で、5年生の約75%が進路を確定いたしました。残る約25%の内、約5%が就職のための活動中、約15%が進学のための活動中であります。総括するにはまだ早いのですが、現時点の進路状況を俯瞰させていただきますと、次の2点が傾向として示されます。1) 就職先の比率は県内（特にIT）企業が比較的高い。2) 編入学試験に際し、推薦選考を活用している。

私見ではありますが、高専本来の就職先であります製造分野大手企業の現業部門への就職活動を、今後推進する必要があると考えています。また、編入学試験に際し学力試験を回避するのであれば、本学専攻科も有力な選択肢ではないかと考えています。

次に、4年生のインターンシップですが、全員の実習受け入れ先が決まり、順次実習に入っています。前にも述べましたが、インターンシップは就職活動の前哨戦であります。インターンシップ先に就職を確定した学生もおります。就職の『模擬試験』として、自分の実力を知るために活用していただきたいと考えます。

今、学科の懸案事項として2009年度専攻科設置と2009年度以降のカリキュラム改変があげられます。これらの検討に際し、上記の進路動向にマッチした職業教育を目指す所存であります。高専における勉学を就職/進学に役立つカタチに、より最適化したいと考えています。

（平成20年度学科長：姉崎 隆）



各学年の話題（5年生）

学級・進学・就職状況について

5年生は卒業まで残りわずか半年になりました。進路も大半の学生が確定しています。進路が確定するまで就職活動や編入学試験でなかなか手を付けることができなかった学業にも集中して取り組むことができるようになりました。特に5年生は高専でこれまで学んできたことの集大成として卒業研究に取り組んでいます。卒業研究では本学科の教員に2～5名の学生が配属され、各教員が専門で研究してきた分野を中心として、それぞれの研究テーマに取り組んでいます。内容も授業とは格段に専門的になるとともに、教わるのではなく自らが学ぶ姿勢が求められます。卒業研究は来年2月頃に予定されている、卒業研究発表会を前に11月19日に中間発表を行う予定です。夏季休業中も卒業研究に取り組む学生がおります。高専での最後の夏季休業を有意義に過ごして欲しいものです。

また、11月8、9日の高専祭で5年生は昨年に引き続き映像作品を発表する予定です。昨年度は毎回大入りで大

好評でした。今年もどんな作品ができあがるのか楽しみです。

（メディア5年担任：正木 忠勝）



各学年の話題（4年生）

学級状況について

夏休みの直前（8月15日）に4年生の進路アンケートをとりました。その結果、進学希望者が17名（43.6%）、就職希望者が22名（56.4%）でした。以前（5月の調査）より進学希望の学生が増えました。特に専攻科希望の学生が多くなっています。就職希望の学生については、県内就職希望が40%、県外が60%で、以前と同等な割合でした。早い者では、就職活動が12月から始まります。昨年同様、今年も12月に那覇市で開催される企業説明会に4年生を参加させる予定です。進学希望の学生には、今から希望大学の過去問題等を入手して

もらい、早くから勉強してほしいと思います。進学希望にせよ就職希望にせよ、自分の将来のことなので、悩みに悩んで納得できるまで考えてほしいと思います。

さて、4年生では以下の3つの行事が控えています。

- (1) インターンシップ（次節を参照のこと）
- (2) 卒業研究（卒研）配属
- (3) 研修旅行

現在の4年生が来年度5年生に上がり、卒業するためには「卒業研究」を行わなければなりません。卒研配属とは、学生がどの教員の研究室に所属し卒業研究するかを決める、重要な行事です。来年度の卒研配属は、後学期10月2日から準備を開始し、11月14日には配属を決定する予定です。卒研配属までの流れは以下の通りです。

- 10月2日（金） 各教員の研究概要配布
 ～ （研究室訪問、面接など）
 10月16日（木） 第1回卒研希望研究室調査
 ～ 第x回卒研希望研究室調査
 11月14日（金） 配属決定

4年生の研修旅行は、来年3月2～5日の日程で東京へ行く予定です。現在の正式予約状況は下記の通りです。

・往復飛行機

往路：H21年3月2日（月）
 那覇12:15⇒羽田14:35＝JAL904便
 復路：H21年3月5日（木）
 羽田13:10⇒那覇15:40＝JAL919便

・ホテル3泊4日

錦糸町 東武レバント東京

また、研修先としては、JAL羽田整備工場、東京エレクトロンFE、日本ユニシス等を予定しております。さらに、スケジュールの中には「自由研修」の時間も組まれており、各自（グループ）が計画をたて、自由に研修できるようにしたいと考えています。

最後になりますが、4年生の皆さんには夏季休業を有意義に過ごして欲しいです。ホームルームでも言いましたが、特に親孝行をしてください。では、後学期に会いましょう。

（メディア4年担任：タンスリヤボン スリヨン）

インターンシップについて

前学期の期末試験も終わり、いよいよ4年生はインターンシップが始まります。今年のインターンシップは、県内企業に19名(15社)、県外企業に18名(14社)の学生がお世話になることになりました。期間は1週間から長い学生は3週間で、早い学生は8月18日からインターンシップが始まっています。

企業でのインターンシップ研修に不安でいっぱいになっている学生もいますが、多くの学生は、近い将来、就職するかもしれない仕事を実際に体験できることに期待してワクワクしているように見えます。

インターンシップ中は、各企業のインターンシップ担当者にご指導を頂きながら新入社員と同じように業務や

研修を体験する予定です。ご指導頂いた内容については毎日報告書を作成し、インターンシップ担当者の方の確認を受けることになっています。

また、10月8日には、インターンシップ報告会を予定しています。この報告会は3年次の学生も聴講することになっており、来年度のインターンシップに向けて先輩の体験談を聞く良い機会となります。

インターンシップ期間中は、各ご家庭におかれましてもご理解とご協力をいただけますよう、よろしくお願い致します。

（インターンシップ担当：伊波 靖）



各学年の話題（3年生）

学級状況について

早いものでもう1年の半が過ぎました。振り返ってみると、まず直近の行事では、8月8日（金）から14日（木）まで前学期期末試験が行われました。学生たちはこれまでの講義や実験で学んだことを復習するために多くの時間を使い、試験に臨みました。前回の試験での問題点などを踏まえ、多くの学生が中間試験の時よりも良い点を取ることに成功できたようです。少なくとも、私が担当している「コンピュータアーキテクチャ」という科目では、平均点が「約15点」上がっており、クラス全体として非常に努力したことが伺えます。この調子で後学期もペースを落とさず、しっかり頑張りたいと思います。

少し遡ると、7月28日（月）から8月1日（金）までの5日間にわたり、東京工業大学学術国際情報センターと大阪大学サイバーメディアセンターの2会場で、主に科学技術計算のために利用されるスーパーコンピュータを使ってプログラミングのアイデアを競う大会「スーパーコンピューティング・コンテスト」第14回大会の本選大会が開催されました。本大会には、見事予選を突破したメディア情報工学科3年の津波古渉太くん、上原悠輔くん、そして諸見里圭太くんの3名によるチームが参加し、全国から集まってきたコンピュータのスペシャリストたちと日頃から磨いてきたプログラミング技術を競い合いました。残念ながら、上位の成績を収めることはできませんでしたが、予選を突破してきた全国の強豪相

手にプログラミングという土俵で戦った経験は、きっと、彼らの今後の人生の糧になるものと思われます。



校長先生から賞状を受け取る津波古くん（左）と上原くん（右）

さらに遡って学科だより通巻7号の発行日から少し経った6月29日（日）には学生会主催の「体育祭」が行われました。これは5色綱引き、1000m競争、1500m競争、障害物競走、大綱引き、玉入れ、騎馬戦、学級対抗リレーの8種類の競技種目で競い合う大会で、今回は学級対抗戦として行われました。メディア3年チームは惜しくも上位入賞を果たせませんでした。最後まで頑張った学生たちの顔からは笑顔がこぼれていました。激しい競技もある中で怪我もなく無事に終わってくれて本当に良かったです。



体育祭で力を出し切りすべての競技を終え満足顔のメディア3年チーム

最後に、マレーシアへ短期留学していたメディア情報工学科3年の大城大くんより、留学体験レポートと写真が届きましたので、そちらをご紹介します。なお、紙幅の制約のため、また旅程が4年生の研修旅行とほぼ同じ（ただし、出発日は3年生の方が1日早く設定されています）であるため、本号では割愛させていただきました3年生の研修旅行についての話題は、次号にて詳しくご説明させていただきます。

（メディア3年担任：佐藤 尚）

マレーシア短期留学体験記

僕は去年やんばるスピーチコンテストで銀賞をとり、その副賞として8月4日から8月25日の3週間、マレーシアでライオンズクラブのホームステイ・プログラムに参加させていただきました。

マレーシアでは、大学の学園祭、高校の体験授業、英会話教室の体験、現地の方々とのバスケ、マラッカ、さらにペナン島、クアラルンプールなどへの観光など、様々な体験をさせていただきました。の中で一番印象的だったのがホストブラザーの高校体験です。その高校は外国人を受け入れることが初めてだったらしく、たくさんの生徒から注目されました。現地の高校生はみな親切で、彼らとのふれあいを通じて、考え方の違いなど本当にたくさんのことを学びました。



マレーシアの高校生に囲まれてやや緊張気味の大城くん

マレーシアの人はとても英語が上手です。マレーシアの学校では全て英語で授業が行われています。しかし、各家庭では中国語、マレー語などで話されています。生徒はみな授業についていくために英語を理解する必要がありますし、生徒同士では英語でないと話が通じません。英語を使う必要があるからこそ、英語が伸びるのだと思いました。実際彼らは、小学校から英語を「勉強して」身につけたのです。一方、私たち日本人も中学校から少なくとも6年間は英語を勉強しているのに英語が苦手です。この決定的な差は、日本で生活していく上で基本的には英語が必要ないということから生まれるのではないかと考えました。

マレーシアでの英語の教育の仕方にも興味を持ち、英会話教室も体験させてもらいました。生徒はプレゼンテーションの訓練を積んでいたのでしょうか、みな発表がとても上手で、聞き手も積極的に質問をしており、彼らの熱意に驚かされました。また、日本語が堪能な少年にも会いました。なぜ日本語を上手に話せるのかと聞くと、毎日日本のアニメを見て勉強したからだそうです。とてもすばらしい勉強法だと思いました。

ところで、中国系の人の英語は聞き取ることが非常に難しいです。今の中国語かな？と思っても、よく聞くと

英語を話している、という感じです。しかし、世界中にはいろいろな英語の訛りがあります。アクセント、発音があまりにも違うことがあります、海外に出るとそれらを全て聞き分けなければなりません。ホストシスターの短大の学園祭に行った時にそのことを思い知らされました。そこにはインド系、マレー系、華人、白人、黒人と様々な人たちがおり、彼らの英語はそれぞれ独特だったのです。もう1つ驚かされたことがあります。それは彼らが初対面の人でも積極的に話しかけ、握手を求めてくるということです。彼らは必ず自分から名乗り、相手の名前を聞きます。フレンドリーで、とても良いことだと思いました。英語を話すことができれば、世界中の多くの人とコミュニケーションが取れるので、英語はとても大切だと改めて感じました。

ホストファーザーの母の家にも行きました。その家は首都から程遠い地方にあり、いわゆる田舎暮らしも体験できました。一番困ったのがトイレです。水洗ではなくバケツの水をこぼして流します。次に困ったことは、蚊がたぐさいて、夜あまり眠れなかったことです。蚊のいないクーラーのきいた部屋で眠れることがいかに幸せであるかを感じました。ペナン島という島にも行きました。そこは海がきれいで、沖縄と似ていたせいか落ち着きました。この田舎暮らしを体験したことによって、乾燥機が使える、衛生的で栄養面も考えられた食事がとれる、自分の部屋がある、エアコンがある、何よりトイレトーパーのある水洗トイレをいつでも利用できるなど、僕たちが「普通」と思っている生活がどれだけ恵まれているかを感じさせられました。

都会と地方の暮らし両方を見ることができ、沖縄と全く違う環境を体験できたからこそ、自分の世界が広がり、沖縄が一番いいなと感ずることができました。学校の先生方、スピーチコンテスト、ライオンズクラブの方々、何よりお世話になったホストファミリー（アンクル、アンディ、ジンチョワン、ピン）にとっても感謝しています。めったに味わえない貴重な体験を経験させていただき、ありがとうございました。この経験は僕の将来に必ず役立つでしょう。僕は今年も「やんばるスピーチコンテスト」に参加する予定です。みなさんも、今しかできないことを見つけ、積極的に取り組んでみてはいかがでしょうか。

（メディア3年：大城 大）



その他の学科内の話題

資格試験について

10月19日に実施される秋期情報処理技術者試験をメディア情報工学科から54名の学生（5年生10名、4年生12名、3年生15名、2年生16名、1年生1名）が受験し

ます。当日は学校から試験会場の沖縄大学までバス2台で引率します。結果は次号でご報告させていただきます。

（資格試験担当：正木 忠勝）

自動車の運転と車両通学について

夏休みを利用して運転免許を取得する学生もいます。免許を取得すれば誰でも胸を張って車を運転することができますが、運転者としての社会的責任を十分に果たすには学生はまだ未熟であるという点を指摘することができます。安全な運転を心掛けることの意義と安全運転の実践的技術、また不幸にも事故に関与してしまった場合の具体的な対処法について、普段からご家庭でも話題に取り上げていただきたいと思います。特に、沖縄では米軍関係車両（いわゆる「Yナンバー車」を含めて）との事故の問題に留意する必要があります。

自動車通学には学校への届け出が必要です。卒業研究などで夏休み中に登校する必要がある学生も所定の手続きを経て、学校へ自動車で来ることができます。学校の駐車場は不足しているのが現状です。学校付近のビル駐車場などに学生が勝手に自動車を停めて通学し、近隣住民とトラブルになっている例も出てきています。学生委員会としては、本校が僻地にあることに鑑み、校内の駐車場増やスクールバス運行など、取り得る改善策を提案しているところではありますが、通学の不便を訴える学生・保護者からの声に対して、対策が後手に回っているのが現状です。正確なニーズの汲み取りと、早急な対策のため、まず学校の規則に従った通学を行い、その上で通学に関して抱えている問題や学校への要望がありましたら、遠慮なく担任や学生委員にご相談ください。

（学生委員：西村篤）



編集後記

「メディア情報工学科だより」は、3学年以上の学生をお持ちのご家庭を対象に、試験の成績通知に合わせて発行している学科通信です。1期生が3学年となった平成18年度に刊行し、これまでに7号を発行しました。学科だよりにご意見ご要望がありましたら、是非お知らせ下さい。また学校に対してお持ちの疑問・要望、また他の保護者の方々にも知って欲しいことなどを投書して下さることも大歓迎ですので、是非お気軽にお便りをお寄せ下さい。

【編集担当者連絡先】

〒905-9021 沖縄県名護市辺野古905番地

独立行政法人 国立高等専門学校機構

沖縄工業高等専門学校 メディア情報工学科 佐藤 尚

TEL: 0980-55-4003 (代) FAX: 0980-55-4012 (代)